

**三菱UFJニコス、「横浜赤レンガ倉庫」に
訪日外国人向け“外貨建てカード決済サービス”を導入！**
～年間約600万人が訪れる人気観光スポットで2月23日取り扱い開始～

三菱UFJニコスはこの度、株式会社横浜赤レンガ(横浜市中区、代表取締役社長 久米本憲一)運営の「横浜赤レンガ倉庫」に、訪日外国人向けの外貨建てによるカード決済サービス「DCC(ダイナミック・カレンシー・コンバージョン)決済サービス」導入を決め、2月23日に同館各テナントでその取り扱いが開始となります。

「横浜赤レンガ倉庫」は明治末期から大正初期に建設され、平成14年には文化・商業施設としての横浜赤レンガ倉庫がオープンしたものです。レトロな情緒溢れる雰囲気と、情報発信基地としての現代の気風を併せ持つ人気観光スポットとして、幅広い顧客層から支持されています。

同社は著しく増加している訪日外国人へのサービス拡充に注力しており、今般、横浜赤レンガ倉庫の各テナント(雑貨・ファッション、インテリア、レストラン、カフェ等)に外貨建てによるカード決済サービスの導入を決めたものです。

「DCC決済サービス」は、日本国内において海外発行カード(VisaとMasterCard®)による自国通貨※建てでの決済を可能とする仕組みであり、当社は平成25年10月から取り扱っているものです。

※ 米ドル、韓国ウォン、豪ドル、台湾ドル、ユーロなど10通貨

具体的に同サービスは、当社運用のクラウド型マルチ決済システム「J-Mups(ジエイマップス)」導入加盟店で利用可能。これにより、訪日外国人は従来の「円建て」に加え、「自国通貨建て」の決済が選択可能となり、為替変動の心配なく、利用時点の為替レートで支払金額を確定できるようになるものです。

当社は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、今後も訪日外国人向けの決済サービスの環境整備に注力していきます。

<サービス概要>

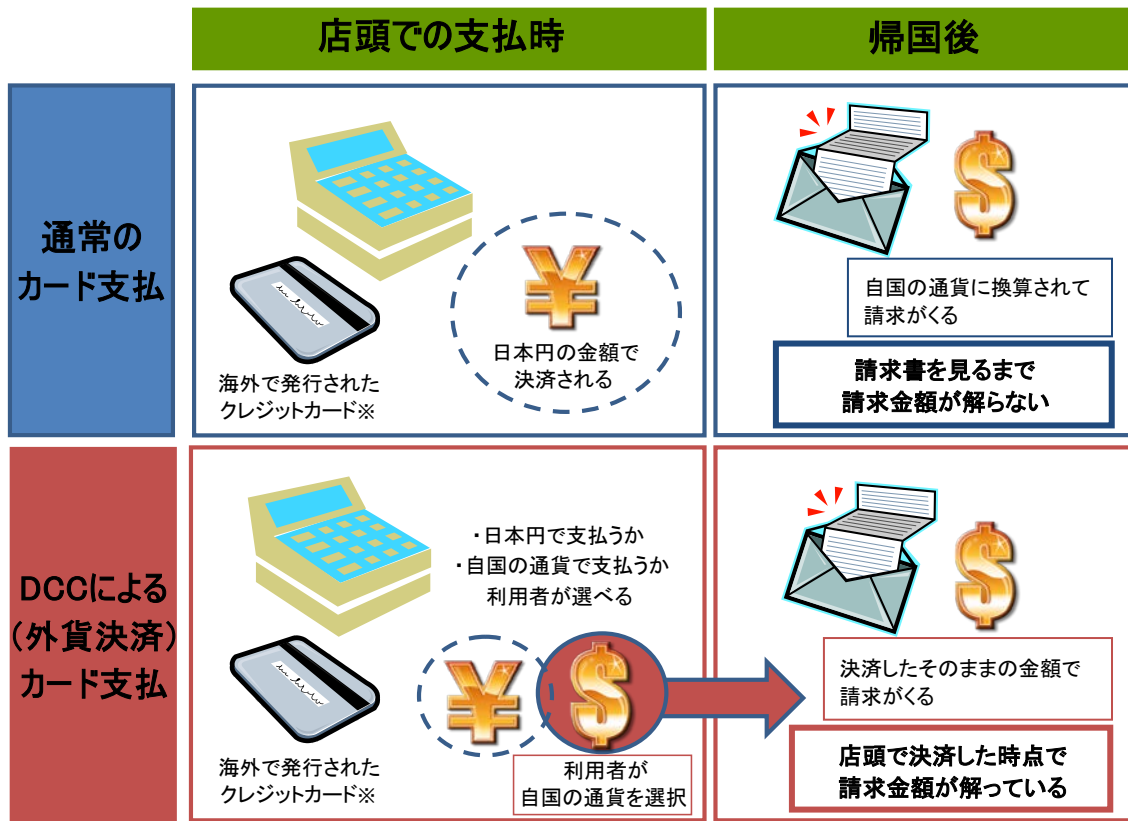
1. 対象取引: 海外発行のVisa、MasterCard®カード会員によるカード決済
2. 対応通貨: 10通貨(米ドル、韓国ウォン、豪ドル、台湾ドル、ユーロ、香港ドル、シンガポールドル、英ポンド、タイバーツ、カナダドル)

以上

<参考資料>

■ご利用イメージ

DCC決済サービスの利用イメージ



※請求通貨がUSドルのクレジットカードの例

■店頭取引/端末画面イメージ

①対象カード判定



②説明内容表示



③確認画面



以上